

高齢者が会員のシルバー人材センターってどんなことをしているところなんだろう。そういえば、この間リサイクル自転車の販売をしていて朝からにぎわっていたな。ということで、相模大野駅からほど近い南新町商店街通りに面してある公益社団法人シルバー人材センター南事務所の所長・菊地原浩二さんにお話を伺いました。

このまちの便利屋さん

相模原市シルバー人材センター

相模原市南区相模大野8丁目9番6号
電話 042-745-2158 FAX 042-749-5663



管内(南区)の会員数は、昨年度末で1,322人(南区の60歳以上の人口の1.8%)、うち1,038人が男性と圧倒的な数を占めています。この日も、男性会員がリサイクル自転車のパーツの整理や網戸の張替えのための作業をしていました。シルバー人材センターの仕事の内容としては、公共施設の管理業務が大きな柱としてあるほか、私たち市民の暮らしに役立つものとして、植木の手入れや庭草の除草、家の掃除、洗濯、食事の支度など、ホームヘルパー的な仕事も請け負っています。お盆の時期などで家を空けるときに、植木の水遣りを依頼する人もいます。また、簡単な家の修理や一時間程度で済んでしまうような



第4金曜日はリサイクル自転車販売、包丁研ぎやっています。事務所入り口では、野菜販売も。

荷物おろしや蛍光灯の交換、電化製品の配線など、ちょっとしたことでボランティアの精神と破格の料金で引き受けてもらえます。まるで「まちの便利屋さん」ですね。新たな取り組みとしては、昨年度から夏休みの期間中、元教員だった会員による教科書を中心とした「おさらい教室」も開かれています。(対象：小学4～6年生、8/20,21,22、8/26,27,28の各3日間、3,000円) その他、毎月第4金曜日の朝9時から、リサイクル自転車の販売、包丁研ぎ、会員栽培の野菜の直売(第2金曜日もあり)など、朝から多くの人で賑わっています。高齢者の健康といきがいのためのシルバー人材センターは、私たちの暮らしに大いに役立っています。ぜひ一度ご利用になっはいかがでしょうか。

シルバーの便利屋

- ・蛍光灯の取替え
- ・物置等の片付け
- ・お使い・留守番
- ・囲碁・将棋等の相手
- ・ペットの世話・散歩
- ・古新聞・古雑誌等の整理
- ・手紙の代書・投函
- ・植木の水やり
- ・家具の移動・解体
- ・テレビ・ビデオの配線

1,070円/h~

気軽に安心して頼めるお手伝いが欲しいとき、ちょっとした用事(短時間かつ軽微)を頼みたいとき、身近ないろいろを迅速・丁寧にお手伝いします!お電話でご相談ください。助け合いの精神で、地域の皆さんのお役に立ちます!

結婚式の招待状の文言づくりから、毛筆の宛名書きまで・・・こんなことまでお願いできるんだ!
さすが人生の先輩たちが集まる人材バンクです!

ぜひ、若い方もググってみてください。
<http://www.sagamihara-sc.or.jp/>



このまちで食べ、笑い、眠る。ささやかな奇跡に満たされながら。

紙 上 カ フ エ



「何も無い」と答えた方は、40代から60代まで男女問わずいらっしゃいました。でも、「もう、何十年も住んでいるから住みやすかったということでしょうか」と60代の女性が答えてくれたり、「これといって魅力はないけれど、住んだら離れられない目に見えない魅力がある」と20代の男性が答えてくださったり。「住めば都」というように、「お気に入り」はいつだって、気が付けば身近にあるはず。欲張らなくても、そんなまちは、本当は得がたいまちです。そのためにほんの少しの努力をしなければ、改めてそう思いました。

※大野南エリア内にて、無作為に聞きとりをさせていただき
ご了解いただいた方のコメントを掲載しています。
※文字の大小、レイアウトも、コメントに
関係なく行っています。
※いただいたすべての回答は、NPO法人ここずっとの
HPでごらんになることができます。



101人に聞きました！ このまちのどんなところが気に入っていますか？

まちをあるくとき、
若い人が多いのがいい。
(70代女性)

●まちは、ひとがつくるものだから——

やっぱり、ひと

友だちがいっぱい住んでいる。
(50代女性)

素敵な仲間がいるから好き。
(60代女性)

まちづくりについて語れる人がいること。
(50代男性)

まちを歩いていて、すれ違う人たちが
だいたい同じレベルというか、
安心できるところ。
(30代女性)

●緑色は、いやしです——

公園・みどり

旭森公園。こもれびの森。自然に癒される。
(60代女性)

子どもと遊びに行ける公園が多いこと
(30代女性)

みどりが気に入って
引越してきた。
(60代女性)



図書館の窓から見える相模大野中央公園が
とっても気に入ってます。
(50代女性)

便利な割に騒々しくない。
(60代女性)

ごちゃごちゃしてないところ。空気がきれいな感じがする。
(高校生女子)

●ほどよさで、やさしくなれそう——

ほとんど 便利

騒々しくなくて、
さびれてもいなくて、
ほどほどなところが気に入っています。
(40代女性)

バランスのとれたところ 田舎でもなく都会でもなく。
買い物はよそでも、住むのはココ。
(30代女性)

小児科や医療センターがあって
買い物が便利で子育てしやすい。
(40代女性)

田舎すぎず、
都会すぎず。
(高校生女子／40代男性)

生まれ育ったところだから特にない。
ま、ほどほどなところかな。
(20代女性)

病棟もほとんど便利。
第1病棟もほとんど便利。
とて、も、自分もほとんど便利。
とて、も、自分もほとんど便利。
とて、も、自分もほとんど便利。
(50代女性)

図書館と
グリーンホール。
(60代女性)

施設 JAXA 宇宙航空研究開発機構
のあるまちだということ。
(40代男性)

公民館がいっぱいある。
(60代女性)

ほどほどに都会で、文化的な施設が多い。
(50代女性)

大学が市内に7つもあって、
しかも獣医学部や美大などユニークな学部があること。
(40代女性)

駅のコンコースのオブジェが好き。ポーノの屋上の「さが庭」も。
(30代女性)

路上ミュージシャンがいるとこがいいね。
(40代女性)



なんといってもロケーション

●海にも1時間、山にも1時間、都心にも1時間でいける——

海、山、街、思い立った日にすぐ行ける。
(60代女性)

電車でも車でも、交通が便利。
(40代女性)

南区周辺は災害が少ない。
(60代女性)



窓・窓

市民がゴミをよく分別していて、
ゴミの回収が無料なところがステキ。
(70代女性)

安心してお散歩できる、遊歩道もあるし。
(20代女性)

まちの雰囲気が、明るい。
(70代女性)

下駄ばきで歩けるような気さくなまち。
(60代女性)

都市なのに畑があって野菜の直売場があったりするとこ。
(20代女性)

今回のアンケート回答にもあったこのまちの野菜直売所。

口コミをたよりに2ヶ所お訪ねしてみました。どちらも20年以上つづいている直売所。
やはり、野菜の味や新鮮さはくらべものになりません。遠くは江戸川区、強羅、瀬谷の方
から買い求めにいらっしゃる方もいるとか。トマト、トウモロコシ、枝豆の時期には、ひときわ、
お客さんが野菜を置く前から並んでお待ちくださっているそうです。
なので、口々に、「知っている方にお売りするのが精いっぱい。場所や、様子を記事にしな
いでね」と言われるのです。「相模原市からの取材も断っているくらいだから」と。ひとつ
のところは、TVKに密着取材されたことがあったそうですが、「後が大変だったの」と。



野菜の直売所

え、こんなところに！という生産者のお店。

かううじて、写真を許して下さったところが、こちら(右写真)です。
月・水・金の午後2時半から開くのですが、それを待ちわびて行列ができます。近隣のマンシ
ョンの方が数えたら40名以上お待ちであったとか。「おひとり トマト1コ限り」とあるのも、
人気のほどがわかります。このまちに住んでいればこそ買い求められる野菜です。
ひっそりと近所どうしでご利用を。

それから、もうひとつのところのおじさんが「野菜数とお金が合ってたこと
ないよ」と言われていたのも気になります。おじさんを嘆かせないマナーを
守り、このまちの野菜直売所がずっとつづきますように。



場所も名前も
あえて
明かしません。
このまちに
くらしてるとなら
わかるから……

大野銀座商店街。
いろんなお店があって、結構長い距離歩いていてあきないの。
(20代女性)

●出てくる、出てくる。いろんなお店の名前——
つまり、特色のあるお店がこのまちにはいっぱいあるってことかな。

お気に入りのお店

新大久保に行かなくても
美味しい韓国料理が
食べられる韓味館。
(50代女性)

吉好亭が気に入ってます。
(60代女性)

伊勢

センスがいいし、
けっこう安いですよ。
(60代女性)

ボリュームのある「しゃんと」
雰囲気のいい「かめや」
(30代男性)

駅前が栄えているけど
個人経営のお店もたくさんあって、
下町的な風情のあること。
(高校生女子)

美味しい飲み屋さんいっぱいある。
(50代女性)

しゃれたイタリアンの fagotto。
(70代女性)

コリドーに魚屋さんがやってる定食屋があるんだけど、そこ。
(70代男性)

BOOK OFF。充実してるから。
(40代男性)

大野はお酒売ってるお店が多くて
しかも安い！
(40代女性)

冬場の夕陽が見えるところ
とくに村富線から見える夕陽はすてきよお。
(60代女性)

丹沢の山をようしていること。
(80代男性)

自宅マンションから大山が真正面に見える。
だからここに住むことにした。
(60代男性)

大山、丹沢の山なみが見えるところ。
(60代男性)

大山と丹沢山塊

大山が大のお気に入りだったのに
マンションがたくさんできたので、お気に入りが消えちゃった！
(60代女性)





おしえてっ

自治会

回覧板って、なんだ!?

自治会員への情報を届ける回覧板。おとなりに回覧板を持っていくとき、自治会員であることをいちばん意識するときではないでしょうか。——そこで、中和田自治会・本間俊三会長、鶴の原自治会・森照生会長、御園二丁目自治会・大木恵会長（取材順）にインタビューをさせていただき、回覧板の意味やその活用について考えてみました。



回覧板の情報は地域で暮らすためのもの

回覧板は自治会員に大切な情報を伝えるツールです。その情報がなければ、地域でくらししていくのに支障が生じることもありました。しかし、「自治会加入率が下がってきている現在、自治会員だけが情報をもっているのでは、地域のくらしがスムーズにいかない」（本間会長）ようになってきました。たとえば、ごみ置き場のルールとか。その結果、地域生活に必要な情報は、回覧板でなくとも得られるようになって、相対的に回覧板の情報が特別のもでなくなってきたのです。回覧板の価値が自治会の組織率に比例するというのでしょうか。



コミュニケーション・ツールの希薄化

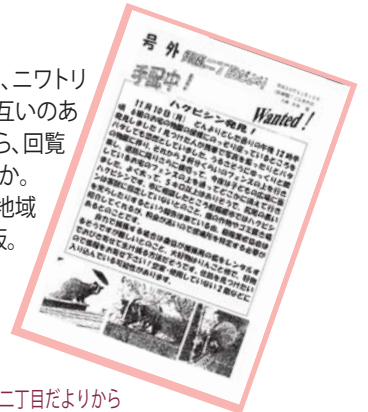
となり近所で顔を合わせて手渡しするコミュニケーションのツールとしての回覧板の意味も薄れています。「高齢者が多くなって、玄関先に置いておくだけということもあるし、個人情報の保護もきびしくなっている」（森会長）せいもあるでしょう。「もらえるものだけはもらいたい、というような個人主義がいけないと思うのですよ。せめて、アパートのオーナーさんとか、地域情報の大切さをわかってくれるといいんだけど…。それは、とても理解のある方もいらっしゃるよ」（森会長）。もっとも、月2回の割合でまわってくる市からの配布物は多種にわたり、期日が過ぎようとしているものがあつたりでは、回覧板の意味がなくなってしまいます。「個人的には、とても大事なものとして回覧板を残していきたい」（本間会長）ものが、このままでは「各戸配布になっていくかもしれません」（森会長）。



自治会ならではの情報を集めて

そんななか、回覧板の活用を語ってくださったのが御園二丁目自治会の大木会長でした。こちらでは、役員会の報告の役割をもつ『御園二丁目だより』を発行、すでに128号を数え（号外除く）、各戸配布されています。その各戸配布と回覧板を上手に使い分け、それぞれ地域の情報を自治会で共有するためのツールとしています。班長会議や必ずポストイングでなされる戸別配布、そのための班編成など、きめ細やかな配慮がなされています。「おかげで、みなさん、よく内容を読んでいらっしゃいますし、その上でご意見も寄せてくださいます」と大木会長。「せっかくある方法なので、プラスの利用を考えて、単独自治会ならではの活用方法をみつけていければ…」と回覧板の積極的利用を語ってくださいました。御園二丁目の「至急回覧」（たとえば、「空き巣が〇〇でありました。節電し過ぎて門灯まで消さないで」みたいな近所情報）は、驚くほどの速さで回覧されるそうです。

考えてみれば、自治会活動と回覧板は、ニワトリとタマゴの関係のようなものです。お互いのあり方が、それぞれを補い合っていくなら、回覧板もつづいていくのではないのでしょうか。メールや携帯が当たり前となっても、地域のつながりのなかで生きていく回覧板。わたしたちも、ただ受け取るだけでなく、おとなりの玄関先に立て掛けるだけでなく、じっくり向き合ってみることが大事だと思いました。



御園二丁目だよりから
ハクビシンの出没を伝える号外（平成20年11月15日号）



クリップ・ボード

いま、たくさんのわたしがたくさんのあなたとつながる——

「100人の母たち」写真展

photos by Nonoko Kameyama



「いのちを守り、いのちをつなぐたい」

「わたし自身が自分に背を向けずに生きるために」

日本各地で働くしなやかに生きる「100人の母たち」。
3.11を経て、彼女たちは何を思い、何を克服したのか。
写真家・亀山ののこが100人の母と出会い、話し、撮った。
フォト・ドキュメンタリー

100人の母たち〜亀山ののこ写真展 in さがみはら

2013年9月12日(木)〜9月18日(木)

ユニコムプラザさがみはら 小田原駅前地下街2F

2013年9月20日(金)〜9月26日(木)

ソレイユさがみ 小田原駅前・富士通ビル地下2F

主催：「100人の母たち」写真展さがみはら実行委員会
（代表）さがみはらに広がるネットワーク
実行委員：さがみはらネットワーク
共催：さがみはらネットワークセンター（福本製菓の会）
（協賛）相模原市 相模原市教育委員会 フォトリテイクさがみはら さがみコンソーシアム



●写真展のプレ・イベント

8月31日(土) 開場10:30

11:00〜14:00

つかえ市

早い話が、お互いの不用品を持ち
寄っての物々交換市です。

参加費：おとな1人 200円

会場：たいにい・ぽっくす（右地図）

9月1日(日) 開場13:30

ライブ&トーク 14:00〜16:00

いのちを守り

いのちをつなぐ

音楽たち

出演：NOB+、しもけん、ガイネ、

たかしまようこ

参加費：高校生以上1人 500円

会場：キッズスクール相模大野
（相模大野8-47 Ojiyan Caféの上）

※プレ・イベントの収益は、すべて
写真展の開催費用に充てられます。

募集!

写真展開催のためのボランティアを募っています。受付だけでなく、展示作業、トークのゲストのお世話までいろいろ。お子様連れも大歓迎。たくさんのひとりから、たくさんのあなたにつながるために手を貸してください。

9/12〜18
ユニコムの
マルチスペースは
母と子の
いきいき広場
になります

ここずっと市民相談日

9月7日/10月5日

いずれも第1土曜日の11:00〜17:00

当日は、電話相談も受け付けます。

TEL 042-745-0676

コミュニティ・カフェ

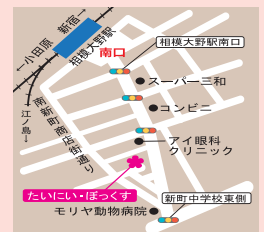
『ここdeコミ』

毎月第3日曜日

8月18日/9月は写真展のため

休み13:30〜15:30

※原則、毎月第3日曜日



Information

ご意見、投稿、記者志望者はここずたうん編集室へ

【TEL】042-745-0676 【FAX】042-742-0447

【E-mail】info@cocozutto.jp

『季刊・ここずたうん』 年4回発行・無料

【発行日】2013年8月10日

【発行者】



NPO法人 ここずっと
〒252-0303 相模大野9-6-18-2F
ここずたうん編集室

ここずたうんは、このまちでずっと暮らしたいと思う人、
思ってもらいたい人のための情報紙となることを目指しています。

この秋、9月、NPO法人ここずっととは、このまちの市民のつながりに
参加し、「100人の母たち写真展」を主催するひとりとなります。
ユニコムプラザ会場の企画では、どんなふうに市民がつながれ
るか、つながるとどんなに楽しいかを体験する機会にしましょう!